

平成26年度文部科学省委託事業

実践的防災教育総合支援事業

報告書



桑名市教育委員会

御浜町教育委員会

セントヨゼフ女子学園高等学校

三重県教育委員会

<目次>

1	はじめに	1
2	事業の趣旨・経緯	2
3	実践的防災教育総合支援事業推進委員会	4
4	事業対象地域の特色	
	（1）桑名市	8
	（2）御浜町	10
	（3）セントヨゼフ女子学園高等学校（津市）	12
5	桑名市の事業	
	（1）防災に関する指導方法の開発・普及のための支援事業	16
	（2）学校防災アドバイザー活用事業	18
6	御浜町の事業	
	（1）学校防災アドバイザー活用事業	28
7	セントヨゼフ女子学園高等学校の事業	
	（1）災害ボランティア活動の推進・支援事業	36
8	成果の共有と課題解決に向けて	42
9	参考	
	（1）事業対象校の特色	45
	（2）事業日程	46

1 はじめに

三重県では、近い将来、南海トラフによる巨大地震や風水害等、様々な自然災害に見舞われる可能性があり、防災教育と防災対策の充実は喫緊の課題です。

こうした中、昨年度、東日本大震災の発生を踏まえ、新たな地震・津波対策を盛り込んだ「三重県新地震・津波対策行動計画」を策定し、「防災教育を通じて、次世代の防災の担い手を育てる」を「選択・集中テーマ」の一つに設定し、防災教育・防災対策を進めているところです。

また、今年度は、毎年、全国各地で大きな被害をもたらす台風等の風水害についての対策をまとめた「三重県新風水害対策行動計画」を策定しています。

一方、三重県教育委員会では、これまで進めてきた学校の防災教育・防災対策について抜本的な見直しを行うため、「三重県の学校における今後の防災対策・防災教育の在り方について〈指針〉」を平成23年12月に作成しました。

この指針の中では、防災教育と防災対策の課題として分類した15の項目を取り上げ、その中でも重点方策として、「学校施設の耐震化及び非構造部材の耐震化」「避難場所、避難経路の確保」「学校の防災機能の強化」「学校が取り組む防災対策・防災教育に対する支援」「学校防災に資する教職員の育成」の5項目をあげています。

この指針に基づき、児童生徒等が災害対応能力を身につけるとともに、安全・安心な学習環境を作るため、児童生徒等に対する防災教育と、学校における防災対策の充実に努めているところです。

そのような中、平成24年度及び25年度に続き、今年度も文部科学省の委託を受けて、実践的防災教育総合支援事業を実施しました。

今年度は、昨年度の成果を発展的に継承し、公立学校だけでなく私立学校においても先進的な取組を展開しております。この成果を広く共有し、実施地域において防災教育と防災対策の充実が推進されるだけでなく、他の地域の教育委員会や学校においても参考にさせていただけるよう、報告書を作成しました。この報告書がその推進の一助になりましたら幸いです。

平成27年2月

三重県教育委員会

2 事業の趣旨・経緯

(ア) 事業の趣旨

本事業は、文部科学省が学校施設等の防災対策のひとつとして県に事業を委託するもので、「防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業」、「学校防災アドバイザー活用事業」、「災害ボランティア活動の推進・支援事業」の3事業からなる。

東日本大震災における教訓を踏まえて、児童生徒等が自然災害等の危険に際して自らの命を守り抜くため、「主体的に行動する態度」を育成し、また、支援者となる視点から、児童生徒等が安全で安心な社会づくりに貢献する意識の向上をはかるとともに、緊急地震速報受信システム等の科学技術を活用した防災教育の推進等が必要であるとされている。

また、各学校においては、「学校防災マニュアル」の内容、避難場所、避難経路等の設定、施設・設備の状況等について、派遣された外部の専門家の助言と指導を受けるとともに、これらの専門家の派遣を通じて、消防署、気象台等の防災関係機関や大学、研究機関等との連携体制を構築することなどにより、防災管理・組織活動の充実と徹底を図ることも極めて重要である。

この事業は、これらの課題の解決のため、防災教育の指導方法や教育手法の開発・普及、学校外の専門家による指導・助言、被災地での災害ボランティア活動等を行う。

(イ) 事業の内容

①防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業

この事業は、児童生徒等の「主体的に行動する態度」を育成するための教育手法や、緊急地震速報等の防災に関する最新の科学技術等を活用した避難方法に係る指導方法の開発・普及等を行うもので、この事業の実施に関連して、緊急地震速報受信装置を設置することが出来る。

また、この事業では、特に地域の防災関係機関等との連携を密にすることが求められている。

②学校防災アドバイザー活用事業

この事業は、地域防災関係者、大学関係者等、外部の専門家を学校防災アドバイザーとして委嘱し、「学校防災マニュアル」や避難訓練、施設・設備の防災対策の状況等について指導と助言を行うとともに、学校と地域の防災関係機関との連携体制構築についても指導と助言を行うことにより、児童生徒の安全確保に向けた体制の改善を図るものである。

③災害ボランティア活動の推進・支援事業

この事業は、児童生徒等が自助だけでなく、支援者の視点から災害に係わることにより、安心して安全な社会づくりに自ら進んで貢献する意識を高めることを目的として、災害ボランティア活動等に参加する教育手法の開発と普及等を行う。被災地での実際のボランティア活動への参加もしくは被災地でのボランティア活動に関する学習による間接的なボランティア体験を実施する。

この事業においては、特にボランティア関係機関との連携を密接に行うことが求められている。

(ウ) 経緯

平成24年度は津市と桑名市で、平成25年度は三重県、桑名市と鳥羽市で上記3事業を実施した。

平成26年度についても県内市町等教育委員会、県立学校等に公募を行った結果、桑名市、御浜町及び私立学校のセントヨゼフ女子学園高等学校から応募があり、各市町教育委員会等と協議の結果、桑名市は「①防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業」と「②学校防災アドバイザー活用事業」を、御浜町は「②学校防災アドバイザー活用事業」を、セントヨゼフ女子学園高等学校は「③災害ボランティア活動の推進・支援事業」を実施することとし、三重県教育委員会からは文部科学省に事業計画を提出し、5月12日付けで委託契約を行った。なお、委託期間は平成27年2月28日までとなった。

事業の円滑な実施のため、桑名市、御浜町及びセントヨゼフ女子学園高等学校の各学校を対象とする事業については、6月2日に三重県から各市町等へ再委託を行った。

桑名市では小学校12校、中学校6校、御浜町では小学校4校、中学校3校を主な対象に事業を行った。なお、セントヨゼフ女子学園高等学校では、生徒10名が事業に参加した。

(エ) 成果の普及

報告書の配布等により、この事業の取組による成果を県内の市町等教育委員会、各学校等へ普及することが求められている。

また、この報告書の発行に加え、学校防災リーダー等教職員研修会等で、事業の成果と課題について報告を行い、共有することが重要である。

3 実践的防災教育総合支援事業推進委員会

(ア) 目的

文部科学省からの委託を受けて実践的防災教育推進事業を行うにあたり、事業の円滑な実施を図るため、学識経験者、P T A関係者、関係機関（消防署、大学等）及び関係教育委員会からなる実践的防災教育総合支援事業推進委員会を設置することが、実践的防災教育総合支援事業委託要項に定められている。

(イ) 推進委員

これを受けて、三重県教育委員会事務局教育総務課に事務局を置く、「実践的防災教育総合支援事業推進委員会」を設置した。

委員は、実践地域の桑名市教育委員会事務局及び御浜町教育委員会事務局、セントヨゼフ女子学園高等学校から各1名、三重県教育委員会事務局から1名、三重県環境生活部私学課から1名、三重大学から1名、桑名市消防本部から1名、御浜町P T Aから1名、津地方気象台から1名の合計9名とした。

(ウ) 第1回推進委員会

① 日時：平成26年11月13日（木）午前10時から11時30分まで

② 場所：三重県合同ビル

③ 内容

ア 昨年度の事業の成果と課題について

イ 桑名市の事業計画とこれまでの事業報告と今後の事業計画について

ウ 御浜町の事業計画とこれまでの事業報告と今後の事業計画について

エ セントヨゼフ女子学園高等学校の事業計画とこれまでの事業報告と今後の事業計画について

オ 成果報告書の作成について

カ 今後のスケジュールについて

④ 協議内容

昨年度（平成25年度）の事業全体について、まず事務局から説明を行い、特に成果と課題について意見の交換を行った。平成24年度に実施した津市や平成25年度に実施した鳥羽市では、その後どのような取組がみられるかをフォローアップすることが大切であることを確認した。

次に桑名市、御浜町、セントヨゼフ女子学園高等学校から、事業計画とこれまでに実施した事業の内容について説明がなされ、それに対して各委員から質疑と助言が行われた。

その中で、セントヨゼフ女子学園高等学校が実施した災害ボランティア活動についての意見が交わされ、生徒の活動記録等をDVDに収録することや生徒の発表の機会について議論がなされた。

なお、報告書の作成は、本事業を実施している桑名市、御浜町、セントヨゼフ女子学園高等学校の各委員で構成する作業部会で作成を進め、第2回推進委員会で報告書（案）を提示することです承を得た。

（エ）第2回推進委員会

① 日時：平成27年2月4日（水）午前10時から11時30分まで

② 場所：三重県教育委員会 第一会議室

③ 内容

ア 報告書（案）について

イ 桑名市のこれまでの事業報告及び成果と課題について

ウ 御浜町のこれまでの事業報告及び成果と課題について

エ セントヨゼフ女子学園のこれまでの事業報告及び成果と課題について

オ 全事業を通じての成果と課題について

カ その他

④ 協議内容

第1回推進委員会で確認した平成24度を実施した津市、平成25年度に実施した鳥羽市のその後の具体的な取組等について事務局より説明を行った。委員からは、これまでの取組等を報告書にまとめてはどうかとの意見があった。また、桑名市、御浜町及びセントヨゼフ女子学園高等学校から、これまでに実施した事業の内容、及び成果と課題について説明がなされた。

桑名市から昨年度に続き様々な実践的な取組が行われていることが、御浜町からは教職員の研修が確実に防災力向上につながっていることが報告された。また、セントヨゼフ女子学園高等学校からは、災害ボランティア活動に参加した生徒が校内発表するなど、成果を還流していることが報告された。

この委員会での議論をもって、報告書に反映し作成することにした。

<推進委員会委員名簿>

所属	職名	氏名
三重大学	学長補佐・教授	畑中 重光
桑名市教育委員会事務局指導課	指導主事	垣田 智一
桑名市消防本部防災指導課	課長	水谷 祐三
御浜町教育委員会事務局教育課	指導主事	前田 幸利
御浜町立阿田和小学校育友会	会長	白樫 純
セントヨゼフ女子学園高等学校	宗教教育部主任	山田 郁子
津地方気象台	防災管理官	大洲 光知夫
三重県教育委員会事務局 小中学校教育課	指導主事	三谷 敏央
三重県環境生活部私学課	主幹	福井 長年

<推進委員会事務局>

所属	職名	氏名
三重県教育委員会事務局	学校防災推進監	清水 英彦
三重県教育委員会事務局 教育総務課 学校防災・危機管理班	主幹	駒田 裕明
三重県教育委員会事務局 教育総務課 学校防災・危機管理班	主査	太田 暁

4 事業対象地域の特徴

(1) 桑名市

(ア) 地形

桑名市は、三重県の最北端に位置し、養老山地と木曾川を挟んで、岐阜県、愛知県と接し、南に伊勢湾、西には藤原岳を擁する鈴鹿山脈があり、それらを背景として、揖斐・木曾・長良の三大河川と町屋川、大山田川が運んだ肥沃な土砂によって形成された三角州にできた町である。

本市の地形は、東側を木曾川が、南側には員弁川が流れ、東南部は伊勢湾の最北端に接しており、長島地区は、木曾川と揖斐・長良川に囲まれた輪中地帯である。また、西側には40～100mの丘陵地が広がっており、多数の溜池が残っており、北側には岐阜県西濃地方に連なる養老山地がある。

(イ) 気候

比較的温暖な気候であるが、近年、夏に一日の最高気温が全国で上位になるなど、猛暑となることが増えている。冬は、乾燥した晴天の日が多い。強い冬型の気圧配置になると、日本海から流れてくる雪雲の影響で大雪に見舞われることがあるが、降雨量については、三重県内の他市町と比較しても、特別多い地域ではない。

(ウ) 社会的環境

伊勢平野の北端にある人口約14万人の都市である。名古屋市のベッドタウンとして宅地開発が進んでいるほか、機械・金属系を中心とする工業、なばな等の農業、しじみ、はまぐり等の漁業など、地域の特色を生かした産業が盛んである。また、多度大社、六華苑といった観光名所や石取祭などの祭事、さらには大型娯楽施設や大型商業施設など、多くの観光資源に恵まれた観光都市の一面も併せ持っている。

道路は、主要道路として、東名阪自動車道、伊勢湾岸自動車道、国道1号、国道23号、国道258号、国道421号がある。鉄道は、JR及び近鉄が名古屋方面から伊勢及び関西方面に延びており、三岐鉄道北勢線がいなべ市方面へ、養老鉄道線が養老・大垣方面に延びている。

港湾は、地方港湾の桑名港が揖斐川右岸部にある。

(エ) 過去の災害

① 台風等

桑名市でも、戦後、台風その他、大雨や集中豪雨により、家屋の倒壊や浸水等の被害を繰り返し受けてきたが、死者を出した被害は、「伊勢湾台風」である。

1959年（昭和34年）9月26日 伊勢湾台風（台風15号）

死者582人 行方不明者25人 負傷者1,553人

家屋全壊499棟 流出381棟 半壊2,630棟

床上浸水5, 009棟 床下浸水1, 087棟
被害者数 46, 781人

② 地震

1586年1月18日 天正地震

この地域でも木曾川輪中地帯から臨海部で地盤が大きく沈下し、当時あった長島城は地盤の液状化によって倒壊し、その直後に高さ3mの津波の襲来を受け、桑名城も倒壊したことが記録に残されている。

1891年(明治24年)10月28日 濃尾地震

木曾川河口部から輪中地帯で20～30cm、桑名市でも5～8cmの地盤沈下があった。 *推定M7.9

1944年(昭和19年)12月7日 東南海地震

濃尾平野南部で家屋の損壊があり、弥富市や桑名市長島町では100cmも沈下した場所があった。 *推定M8.0

※ 本市地域内の活断層(一志断層系、養老断層系、桑名・四日市断層)を震源とするマグニチュード5規模の中地震は、木曾川河口付近で数回、菰野町で1903年(明治36年)7月6日に発生している。

(オ) 市の防災の取組

桑名市では、平成23年度に「桑名市地域防災計画」「桑名市水防計画」の修正を行い、これに基づいた施策の推進を図っている。とりわけ、東日本大震災を教訓とした地震・津波対策は、重点課題である。

【平成24年度以降の主な取組】

津波避難ビルの指定(平成24年度)

桑名市津波避難マップの作成、配布(平成24年度)

災害時要支援者台帳の作成、自治会長、民生委員への配布(平成25年度)

避難所運営訓練(対象:避難所(鍵)担当者1回)(平成25年度)

避難所担当職員研修(平成26年度)

避難所担当職員備蓄資機材設置訓練(平成26年度)

災害対応図上訓練(災害対策本部と各部)(平成26年度)

桑名市総合防災訓練(平成26年度)

城南河川防災センター供用開始(平成26年度)

東名阪自動車道法面緊急避難施設整備工事(平成26年～27年)

<以下、防災マップなど>

「桑名市地域防災計画」「桑名市水防計画」は、桑名市HPに掲載

(<http://www.city.kuwana.lg.jp/index.cfm/23,0,238,html>)

「避難所マップ」「洪水ハザードマップ」は、桑名市HPに掲載

(<http://www.city.kuwana.lg.jp/index.cfm/23,0,240,html>)

<参照>「桑名市地域防災計画」「桑名市水防計画」「桑名市国民保護計画」

(2) 御浜町

(ア) 地形

御浜町は、三重県の南部に位置し、東西 12 km、南北 13.5 km、総面積は 88.28 km² である。東部は雄大な太平洋熊野灘に面し、北西部は、熊野市、南部は紀宝町に隣接している。地形は、海岸沿いが比較的平坦地で、内陸部に向かうにつれ、丘陵地帯を経て次第に山岳地帯を形成している。

(イ) 気候

気候は、典型的な海洋性気候で降雪はほとんどなく、年間の平均気温は 17.6℃、年間の降水量は、2,300 mm の温暖多雨な気候である。この温暖な気候を活かし、一年中みかん（柑橘類）が栽培されている。反面、台風の多い地域でもあり、短期間の強雨が多いことが特色である。



(ウ) 社会的環境

熊野灘に面し一年を通じて温暖な御浜町は、人口約 9,200 人、農林水産業、特に柑橘栽培を主幹産業としている。

御浜町の語源ともなっている「七里御浜」は、熊野市から当町を経て紀宝町までの美しい砂利浜の海岸線が続き、みかん農園と共に御浜町の象徴的な景観である。四季をとおして様々な魚釣りも楽しめる。また、熊野古道「浜街道」のコースでもある。



熊野古道は、熊野三山（本宮大社・速玉大社・那智大社）へ参拝するための巡礼道で、町内には本宮道（横垣峠・風伝峠）と浜街道（七里御浜）が残されている。

風伝峠は御浜町の山間部、米どころ「尾呂志地区」にあり、初秋から春先にかけて滝のように流れ落ちる朝霧は、見る人々の心をとらえる。

主要道路は、国道 42 号線が南北に、海岸部と内陸部は、国道 311 号線によってつながっている。紀勢自動車道の南進、尾鷲熊野道の開通により、県北部との連絡が格段に向上し、今後の町の活性化に期待をしている。

鉄道は、JR 紀勢線が海岸部を通過しており、町内には、神志山駅・紀伊市木駅・阿田和駅の 3 つの駅がある。

(エ) 過去の災害

①台風等

平成23年台風12号では、堤防の一部が破れ半壊した家屋に巻き込まれ1人が死亡したほか、避難者数109名・55世帯、孤立集落2地区78世帯152人、床上浸水69戸、床下浸水105戸、道路・河川・橋梁等の被害総額約19億円、農作物の被害総額約3億6千万円、公共施設の被害状況（床上浸水：阿田和小学校、中央公民館、紀南高校）等の大きな被害を被った。

②地震

昭和19年東南海地震、昭和21年南海地震では、津波が来たとの記述はあるが、どの程度の津波で、被害の状況はどうであったかは、不明である。海岸部が七里御浜のなだらかな海岸線であることから、熊野市の海岸部のような大きな津波ではなかったのではと考えられる。

(オ) 町の防災の取組

御浜町では、地震や風水害による災害への備えとして、自主防災組織の研修会の実施や組織の育成、防災訓練等の実施、防災知識普及のための各種講習会等の実施、各種防災資機材・災害用保存食等の備蓄、避難施設等の整備などに取り組んできた。

また、住宅建築物及び防災拠点となる公共施設等の耐震化の促進など災害に強い街づくりを進めてきた。特に、全世帯加入の自主防災組織が61組織結成され、組織率は100%を達成しており、防災に努めている。さらに平成24年4月より新たに防災課を設置した。また、全庁的プロジェクトとして自主防災組織の育成・強化を目的に、御浜町役場全職員を防災課兼務とし自主防災の支援に取り組んでいる。

【平成24年度以降の主な取組】

防災課の新設（平成24年4月）

全職員の防災課兼務発令（平成24年5月）

木造住宅無料耐震診断・耐震補強工事補助（平成24年より）

全職員対象の防災研修会（平成24年より毎年1回）

『御浜町緊急地震・津波対策行動計画』の策定（平成24年12月）

阿田和小学校屋上避難階段整備（平成25年1月）

芝地・下地地区津波避難タワー整備（平成25年3月）

町内小中学校非構造部材耐震化工事（平成25年8月）

家具転倒防止器具購入補助事業・自主防災組織家具転倒防止器具設置推進事業補助事業（平成25年10月より）

災害協力井戸の登録(平成25年より 現在97件登録)

(3) セントヨゼフ女子学園高等学校 (津市)

(ア) 地形

津市は、北に鈴鹿市、亀山市などと、西は名張市、奈良県御杖村・曾爾村などと、南は松阪市などと接し、東は伊勢湾に臨み、三重県の中央部を横断している。面積は約 710 k m² で、三重県の市町で最も面積が広く、県の総面積の 5,777 k m² の約 12% を占めている。

津市域の地勢は、山間地帯、丘陵地帯及び平野部の3地帯に分けることができる。西境沿いの山間地帯は、標高 700~1,000m の山々が連なる布引山地と一志山地からなる。

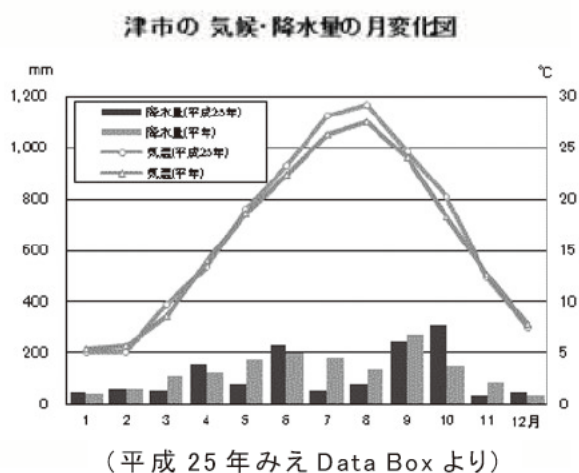
布引山地東縁断層帯は、分布から西部と東部に区分される。西部は亀山市から津市久居を経て一志郡嬉野町に至る。東部は鈴鹿市から、津市・松阪市などを経て多気郡勢和村に至る。

布引・一志山地を源とする安濃川、雲出川が伊勢湾に、また、市域内西端近くに流れる名張川が木津川、淀川を経由して大阪湾に注いでいる。

(イ) 気候

伊勢平野は、県北部から中部の海岸沿いに広がり、津市は比較的温かな気候で年平均気温は約 16.5℃、年降水量は 1,800~2,000mm となっている。また、冬には鈴鹿山脈や山麓に降雪をもたらした北西の季節風が、乾燥した「空っ風」となって平野部を吹き渡り伊勢湾へと吹き抜ける。

伊勢平野の北部は敦賀湾と伊勢湾との間の本州でも最も狭い区間に近いいため、冬の季節風が日本海から伊勢湾に吹き抜けるときはかなりの降雪をもたらし、日本海気候の特徴がみられる。



(ウ) 社会的環境

津市の人口は、280,647 人となっており、三重県の総人口の 1,820,491 人(2014 年都道府県庁所在地 人口・面積より)の 15.4% を占め、県内では四日市市 (301,116 人) に次いで 2 番目に人口の多い市になる。

世帯については、2014 年津市ホームページによると、122,832 世帯となっており、1 世帯当たりの人員は 2.28 人である。

(エ) 過去の災害

＜津市で震度4以上あった主な地震＞

年月日	地域（地震名）	マグニチュード	震度
昭和11年2月21日	奈良県（河内大和地震）	6.4	4
昭和13年1月12日	和歌山県南方沖	6.8	4
昭和18年9月10日	鳥取県東部（鳥取地震）	7.2	4
昭和19年12月7日	三重県南東沖（東南海地震）	7.9	6
昭和19年12月12日	三重県南東沖	6.5	4
昭和20年1月13日	三河湾（三河地震）	6.8	5
昭和20年1月14日	三河湾	5.9	4
昭和20年1月16日	愛知県西部	6.4	4
昭和20年1月19日	愛知県西部	5.3	4
昭和21年12月21日	和歌山県南方沖（南海地震）	8	5
昭和27年7月18日	奈良県（吉野地震）	6.7	4
昭和35年12月26日	三重県中部	6	4
昭和36年8月19日	石川県加賀地方（北美濃地震）	7	4
昭和38年3月27日	若狭湾（越前岬沖地震）	6.9	4
昭和44年9月9日	岐阜県美濃中西部	6.6	4
昭和46年1月5日	遠州灘	6.1	4
平成7年1月17日	大阪湾（兵庫県南部地震）	7.3	4
平成16年9月5日	三重県南東沖	7.4	5弱
平成19年4月15日	三重県中部	5.4	5弱

＜津波＞

1707年宝永地震：四国から伊豆半島の広い範囲で高さ5メートル、尾鷲周辺では8～10メートル

1854年安政東海地震・安政南海地震：三重県の一部で約10メートル

1944年東南海地震：紀伊半島東部沿岸で6～9メートル

1946年南海地震：紀伊半島の太平洋沿岸で4～6メートル

1960年チリ地震：三重県沿岸で約1～4メートル

(オ) 学校での防災の取組

本校は、私立学校ではあるが、2014年6月16日からは「津市指定避難所」として認定を受けた。それ以前は「津市一時避難所」として指定されていた。2014年8月9日の台風11号では37名15世帯が、10月13日の台風19号の際には、5名3世帯の方々が避難してきた。

<全校生対象>

2014年4月：防火避難訓練

8月：釜石でのボランティア体験報告会を全校生で聞く。

8月：防災避難訓練

10月：ウォーカーソンで東北の被災地のための募金活動を行う。

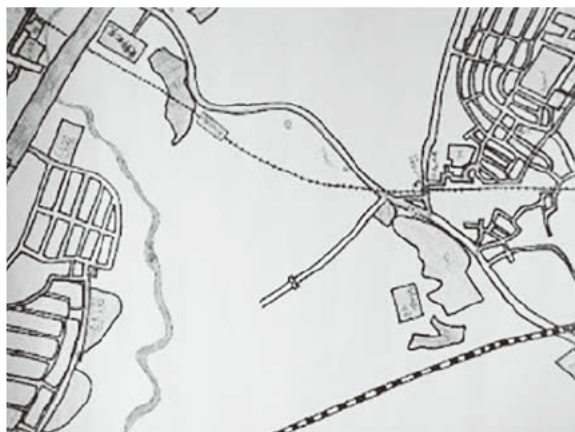
11月：防火避難訓練

2015年3月：予告なしの避難訓練実施予定

<学年別の防災学習>

・中学1年：「学校が避難所になったら」のボランティア講座実施。

津市社会福祉協議会のご協力のもと行う。(写真右)



・中学2年：「防災マップ作り」
社会科の協力のもと行う。(写真左)

・中学3年：岩手県山田町の被災状況を知る学習をし、支援のお手紙・カードを送る。

・高校1年：日本赤十字救急法講習会を行い「赤十字救急法救急員認定証」を受ける。毎年約30名合格

・高校1年・2年：夏休みに岩手県釜石市の「カリタス釜石」でのボランティアをしながら、現地で防災学習を行う。

(カ) セントヨゼフ女子学園の創立と沿革

本学園はカロンデレットの聖ヨゼフ修道会によって創立された。この修道会は1650年にフランスで創立され、1836年にアメリカ合衆国に渡ってミズリー州セントルイス市の郊外、カロンデレットに本部を定めた。その後、アメリカ全土のみならず日本・ペルー・チリにも活動の場を広げ、現在、約1,400人の修道女が教育や社会福祉事業などの分野で献身的に奉仕を続けている。

1956年、当時の三重県知事よりミッションスクール設立の要請を受けて4名の修道女がアメリカから派遣された。1958年、創立者シスターアーミナは「高潔な人格と道德観念とをそなえ、広い視野と豊かな教養をもつ日本女性」の育成を目指して、学校法人セントヨゼフ女子学園を設立し、翌1959年に高等学校を開校した。さらに1961年、津市の要請に応じて中学校が併設された。

5 桑名市の事業

(1) 防災に関する指導方法の開発・普及のための支援事業

ア 緊急地震速報受信機の設置とシステムを活用した避難訓練の実施

(ア) 対象校：深谷小学校 多度北小学校
成徳中学校 明正中学校 光風中学校 正和中学校

平成 24 年度対象校：城東小学校 修徳小学校 伊曾島小学校
長島北部小学校 陽和中学校
平成 25 年度対象校：日進小学校 精義小学校 益世小学校 立教小学校
城南小学校 長島中部小学校 長島中学校

(イ) 事業のねらい

- ・緊急地震速報受信システムの導入により、発災時の避難行動を少しでも早く始められるようにする。
- ・システムを活用した避難訓練を実施することで、児童生徒が自らの命を守るために落ち着いて行動できる態度を身につけさせる指導方法について、研究をすすめる。

(ウ) 緊急地震速報受信機の設置

高度利用・現地演算方式の気象庁緊急地震速報受信機を市内 6 校に設置した。特定利用者に向けた「高度利用」は、震度、地震の到達時間、震源の位置が高い速報性で配信させる。

(エ) 緊急地震速報受信機を使った避難訓練

正和中学校	1 1 月	1 3 日 (木)
成徳中学校	1 1 月	1 8 日 (火)
深谷小学校	1 2 月	5 日 (金)
明正中学校	1 2 月	5 日 (金)
光風中学校	1 2 月	5 日 (金)
多度北小学校	1 2 月	8 日 (月)



(オ) 成果と課題

- 高度利用方式の緊急地震速報受信機を設置することで、地震の揺れが到達する前からの行動についても意識できるようになった。これまでは想定しきれていない部分なので、今後の避難訓練に生かしていただけるよう工夫を促したい。
- 実際の緊急地震速報に即した音になる中、緊張感をもった雰囲気の中で行う訓練は、大変有意義な機会となった。

イ 桑名市防災学習ツアー

(ア) 目的

- ・防災関連施設の訪問を通して、防災意識の向上を図る。
- ・防災関連施設の訪問を通して、学校防災において活用できる視点や活動について学ぶ。

(イ) 対象者及び参加者

対象：市立幼稚園及び小中学校教職員

参加：市立小中学校教職員10名

(ウ) 訪問先及び内容

①実施日： 12月25日（木）

②訪問先

名古屋地方気象台

- ・気象予報や警報等の発表に関する講話
- ・測定機材等施設見学

<参加者の感想>

◇気象予報や観測の仕方がわかり、災害における判断の仕組みについても学ばせていただいた。教材として活用できそうなものもいくつか感じた。

◇急激な気象変化への対応では、最新の気象情報は不可欠。「ナウキャスト」の存在を改めて知れて、大変参考になった。いかに情報を早く、そして確実につかむかは重要であると再認識できた。

港防災センター

- ・地震、台風、火災についての体験的講座
- ・学校防災についての講話

<参加者の感想>

◇体験型の展示を通して、実際に災害にあった時の様子が少しでも自分なりにイメージできたことがよかった。

◇シェイクアウト訓練について知れてよかった。「生き残る」という最も大切な視点を大前提において考える必要性について、話を聞くなかで教えていただいた。

◇教師が今以上に防災意識を高めていくことが、これからはさらに必要だと気づかせていただいた。

(エ) 成果と課題

○桑名市から1時間以内で訪れることのできる防災関連施設について、教職員研修や児童生徒の現場学習等に活用できることを参加者が体験することを通して知れたことは有意義だった。

○参加者が少なかったため、周知や開催時期等に工夫をして、より多くの教職員が防災についての研修会に参加できるような支援をする必要があった。



(2) 学校防災アドバイザー活用事業

ア 防災教育アイデア集を活用した公開授業研修会の実施

(ア) 公開授業研修会開催校 : 修徳小学校 長島中部小学校

(イ) 事業の目的

- ・昨年度桑名市教育研究所において作成された「専門機関との連携による防災教育アイデア集」を活用した公開授業研修会を通して、より広く市内小中学校においてアイデア集が活用されることをねらう。
- ・学校防災アドバイザーを交えた研修会を通して、児童生徒の防災力向上につながる授業実践力の向上を図る。

(ウ) 学校防災アドバイザー

三重大学教育学部 社会教育コース地理学研究室
宮岡 邦任 教授



(エ) 公開授業研修会の概要

- ①「専門機関との連携による防災教育アイデア集」の第2章「指導案と本時に関わる資料」より指導案例を選び、基本的にはその流れ通りの授業を公開する。事後の研修会において、本時の授業について意見交流をする。
- ②「自分が本時の指導案例で授業を行う場合、どんな工夫ができるか」をテーマに、小グループに分かれて協議する。その後全体交流をし、学校防災アドバイザーより助言をいただく。

(オ) 公開授業研修会の内容

◆長島中部小学校◆ 1月16日(金) 公開授業 13:50~14:35
研修会 15:00~16:30

【公開授業：4年生社会科 副読本「身のまわりの事故」(伊勢湾台風にかかわって)】

- ・洪水を繰り返すことで肥沃な土壌が堆積し、長島が町として発展してきた経緯を知った。
- ・津波避難マップから長島町の浸水想定を知り、堤防の必要性を再確認した。
- ・大きな台風が来るとわかっただけでどうするか考え合う中で、災害についての情報収集や避難行動について確認したり、近所の避難所の場所を確認したりした。また、必要な備えについて、家族と相談しようという機運が子どもたちの中に高まった。



<研修会の様子から>

- ・授業を通して、防災について家族で話し合いがもたれることが大変有意義である。
- ・より長島地区の様子に見合った指導案例に改良していくとよいのではないかと。
- ・台風については事前に規模や進路がわかるが、突然やってくる地震についての備えをより意識する必要がある。そういった意味で、台風による堤防決壊のほかに、地震・津波による想定も必要である。
- ・“洪水はこわい”という恐怖心のみ終始してしまうのではなく、どう動けば助かるのか、具体的なイメージを子どもたちがもてるような学習を考える必要がある。

《アドバイザーより》

- ・地域をどう考えるか。そのために、地域の地理的な様子をよく知ることが大切。
- ・洪水被害について、これまでとは様子がかわってきている。現在の土地利用の状況を知ること、例えば内水氾濫による洪水等の可能性も十分考えられるという想定も必要となってくる。
- ・勇気をもった早めの避難行動開始は、本当に勇気のいること。自治体やご近所単位の小集団で声を掛け合って行動が起こせるようなコミュニティづくりがポイントとなる。

◆修徳小学校◆ 1月30日（金） 公開授業 14：45～15：30
研修会 15：50～17：00

【公開授業：5年生保健体育「けがの防止」～学校や家での安全な環境づくり～】

- ・東日本大震災以降、地震被害＝津波のイメージが強い傾向にあったが、自分たちの住んでいる環境においては、家屋の倒壊による圧死や損壊死による被害が多いことを資料から読み取った。
- ・屋内での地震被害の資料映像を視聴することで、部屋の様子から地震発生時の危険を考える課題にも意欲的に取り組み、活発に交流し合う場面があった。

＜研修会の様子から＞

- ・これまでの防災教育の積み上げから、子どもたちは具体的に危険を想定することができていた。
- ・資料の設定の仕方によっては、想定幅もより広がる。そういった具体的な工夫ができることに気づくことができた。
- ・防災についての学習内容を、日常の教科指導にどうつなげていくのかが今後の課題である。



《アドバイザーより》

- ・子どもたちの様子から、防災への取組が単発の活動に終わっていないことがよくわかる。今後も引き続き継続して取り組むことを大切にしたい。
- ・防災教育を日常の教育活動にどう練りこむことができるか。防災の視点が日常化することをめざして、今後も工夫する必要がある。
- ・子どもたちの学習が保護者とのかかわりの中でも生かされることで、防災意識の効果的な啓発となる。

(カ) 成果と課題

- アイデア集掲載の指導案どおりに実際に授業を行うことで、児童生徒の理解がさらに深まる学習活動へと改善ポイントが把握しやすかった。
- 指導事例をもとに、目の前の子どもたちや地域の様子により即した学習活動へと改善していくことが重要である。
- 過去の災害や地理的な状況から、被災時の悲惨さや災害の恐ろしさにばかり視点が集中するのではなく、地理的な様子をよく知ったうえで、発災時の備えについて正しく学ぶ必要がある。そういった指導の積み重ねから、復興に向けた自助や共助の意識が育成されることをめざしたい。

イ 学校防災力向上のための教職員への指導・助言

(ア) 避難訓練力向上事業

① 事業目的

現在、桑名市内の各学校では、学校防災計画等に基づいた避難訓練を計画的に実施している。その内容は、児童生徒にとっての訓練という傾向が強く、消防署の方を招いての講話も、児童生徒向けであることが多い。しかしながら、学校防災体制の見直し・強化が重要課題となっていることから、教職員にとっての訓練として、専門的な知識のある方に学校防災アドバイザーとして協力いただき、その充実を図り、学校防災力（避難訓練力）を向上させていくものとする。

② 事業概要

- ・避難訓練において、教職員が自らの指示や行動等について意識を高く持って訓練に臨み、学校防災アドバイザーには、教職員の動き等を中心に見ていただく。
- ・避難訓練についての事後研修会を実施し、教職員の指示や動き等について、学校防災アドバイザーから指導・助言をいただくとともに、今後の避難訓練計画や教職員の動き等の改善を図る。

③ 実施校及び実施日

桑名市内の全小中学校を対象とし、希望により、2校で実施

明正中学校 12月 5日（金）

藤が丘小学校 1月 21日（火）

④ 学校防災アドバイザー

桑名市消防本部 防災指導課



(イ) 校内安全点検力向上事業

① 事業目的

教職員ができる防災対策として、専門的な知識のある方に協力いただきながら、非構造物の転倒・落下防止を中心に安全点検を行う。その結果をうけて教職員が自ら修理等の対応をすることにより、児童生徒の安全を確保するとともに、学校防災力（校内安全点検力）や教職員の防災意識の向上を図る。

② 事業概要

- 授業終了後等に、教職員とともに、ロッカー等の転倒落下防止を中心に、校内の安全点検を行う。
- 職員が自分たちで修理等の対応ができるものを選び出す。
- 対応の仕方やチェック方法において、根拠となる視点や考え方などをアドバイザーに教えていただく。
- 補強作業実習会を開催し、修理・対応を教職員が行うことで、教職員の防災意識の向上を図り、学校防災アドバイザーから作業における留意点を教えていただく。

③ 実施校及び実施日

桑名市内の全小中学校を対象とし、希望により、5校で実施

10月27日（月） 長島北部小学校

10月28日（火） 修徳小学校

11月13日（木） 精義小学校

11月19日（水） 大成小学校

11月17日（月） 星見ヶ丘小学校

1月22日（木） 大成小学校にて5校合同補強作業実習会



④ 学校防災アドバイザー

三重さきもり塾

塾生および卒業生（1級建築士資格者）



(ウ) 成果と課題

- 発災時にどういったものが危害を加えるものになったり避難経路を塞いでしまったりするのか等、具体的なイメージをもつことができ、教職員の防災意識の向上が図られた。
- 避難訓練や安全点検をする際の視点について、専門的な知見から具体的なポイントを示していただけたことが大変有意義だった。
- 安全点検の視点やノウハウが市内の小中学校にさらに広げられるよう、今後も教育委員会事務局主導で取組を進める必要がある。



ウ 津波被害が想定される学校・地域における防災体制の確立に向けた地域防災学習会

(ア) 対象校 : 日進小学校 城南小学校

(イ) 事業の目的

市内沿岸部に位置する学校として、想定すべき危険や課題にはどのようなものがあるのかを考え、防災計画等の備えを見直す。そうして見えてきた課題について、地域と共有しともに考え合う場を設け、今後の地域との具体的な連携へとつながるよう、どのような準備が必要であるかを考える。

(ウ) 学校防災アドバイザー

三重大学 宮岡 邦任 教授 平林 典久 特任助教
三重さきもり塾 北勢地区塾生 4名

(エ) 防災学習会の概要

【第1回】学校職員

桑名市防災指導員から発災時の想定等地域の様子について学習をしたあと、自校の防災計画について具体的な活動内容等を見直す。見出された課題を次回までに整理する。

【第2回】学校職員 地域自治会 PTA

第1回で見出された課題について地域やPTAの方々と共有し、対策について話し合う。学校防災アドバイザーから指導・助言をいただきながら、普段からできる連携について考える場とする。



(オ) 防災学習会の様子

◆日進地区防災学習会◆

第1回 11月27日(木) 16:00～

- ・ 津波警報が発表された時の避難場所がどこにも記載されていないことに気づいた。緊急集合場所は、はたして運動場でいいのか不安になった。
- ・ たとえば下校時刻が学年によってずれているときに、避難や引き渡しがスムーズにいくか、具体的な想定が計画に練りこまれている必要がある。
- ・ 防災計画や避難訓練の見直しと同時に、地域との連携が大変重要である。



第2回 1月20日(火) 18:00～

- ・ 「登下校時に大規模地震が起きたときの対応について」「津波警報および注意報が発表されたときの対応マニュアルについて」「災害発生時における避難所

開設運営について」の3点について意見交流をおこなった。

- ・ 津波警報等により2次避難が必要になった際に、保護者への伝達方法について考え、事前に共有することが必要である。
- ・ 通学路上で安全確認について、地域や保護者の方と一緒に実際に歩いて確認してみる必要がある。
- ・ 避難所開設について、本当に動くことができるのか、実際にやってみるなど具体的に訓練が必要である。そのための協議を重ねる必要がある。



◆城南地区防災学習会◆

第1回 11月21日（金）15：00～

- ・ 1次避難後の行動について見直しが必要だとわかった。2次避難先を再考する必要があるかどうか、議論を深めたい。
- ・ 学校から地域や家庭に対し、学校防災についての情報を発信していく必要があるが、同時に何をどう発信するのか工夫する必要がある。
- ・ 避難所開設時、自分たちがすべきことの確認と、それに向けての基本的な想定が必要であることに気づいた。

第2回 1月28日（水）18：00～

- ・ 「城南地区の危険個所（登下校時）について」「避難所開設にあたって」の2点について意見交流をおこなった。
- ・ 例えば道幅が狭く塀が倒れる危険性のある道路等、地域の協力のもと、危険箇所マップ等を作る必要がある。
- ・ 城南地域としては、非常にたくさんの住民が避難所（小学校）に集まる可能性がある。その際、だれがリーダーシップをとり、避難所運営を進めていくのか。具体的に避難所を開設する訓練を通して、具体的な連携を探る必要がある。



（カ）成果と課題

- 学習会を通して、校区の発災時の想定について、これまでの学校防災計画の内容に加えて、さらに進んだ想定や対応について考えていく必要があることに気づくことができた。
- 学校防災において子どもたちの命や学校生活を守ろうと考えたとき、保護者や地域との連携は欠かせない。今回の学習会を通して、まずは保護者・地域の方に学校の現状を知っていただくよい機会となった。今後も継続して学習会を進めるなかで、学校と地域との具体的な連携が積み重なっていくことが期待される。今回の2小学校区に限らず、学校防災アドバイザーからの助言や指導を財産にして、同様の学習会が市内他小学校区に広がっていくことをめざしたい。

エ 長島防災プロジェクト 14（合同学習会）

(ア) 対象校：長島北部小学校、長島中部小学校、
伊曾島小学校及び長島中学校

(イ) 事業のねらい

学校・保護者・地域が一緒になった合同学習会を開催し、地域の実情に合った防災の在り方を考えていくことで、長島中学校区の防災教育に充実につなげ、今後の「長島ルール」づくりに向けた足がかりとする。

(ウ) 学校防災アドバイザー

三重大学 大学院工学研究科	浅野 聡	教授
三重大学 地域圏防災・減災研究センター	平林 典久	特任教授
三重大学 教育学部社会教育コース地理学研究室	宮岡 邦任	教授
美し国おこし・三重大学さきもり塾卒業生	北勢地区塾生	

(エ) 協力関係機関

NEXCO中日本	白川 尚紀	総務企画担当課長
国土交通省木曾川下流河川事務所	尾畑 功	事業対策官
	河村 昭彦	長島出張所長

(オ) 昨年度の経緯と今年度の学習会の位置づけ

昨年度の「長島防災プロジェクト（全4回実施の合同学習会）」の継続事業として実施する。昨年度の学習会の総括として、学校防災アドバイザーより、「長島町学校ルール」を確立することが理想であるという助言を受けた。非常事態の際に、学校によって判断に誤りがあるといけないので、そのための日常的な情報の共有化は必須である。他校とのつながりを意識し、常に「長島は一つ」であるという認識に立つことが必要であることが確認された。

今年度は、各校の管理職・防災教育担当で自主的に組織した「長島地区小中連携教育推進課題別研究委員会」において「長島ルール」づくりに向けた協議を重ね、そこで話題となった内容をもとに、再び学校・保護者・地域の方による合同学習会を設定し、より良い方向性を探っていく。併せて、長島地区の防災に関わる諸機関の方を招聘し、講話を聴くことで学習会の深まりを図りたい。

(カ) 合同学習会の内容

- ◇開催日時 平成27年1月30日（金）18：00～20：00
- ◇会場 長島公民館2階大ホール
- ◇テーマ 「長島の子どもたちが、自分の命は自分で守れるようになるために、
学校・保護者・地域は何ができるのか」
- ◇参加者 62名（うち保護者・地域の方27名）
- 長島防災プロジェクト 14 事業について（教育委員会事務局より）

- ・昨年度からの経緯と今年度の学習会の趣旨説明
- 長島地区小中連携教育推進課題別研究委員会より報告（長島中部小教頭より）
 - ・今年度の委員会活動の内容および協議の経過
 - ・委員会で確認できたこと、課題となっていること
- 高速道路の防災機能や役割について（NEXCO中日本より）
 - ・桑名市との協定内容（東名阪道の法面活用）
 - ・高速道路の防災機能 他 質疑
- 川の防災と堤防の役割について（国交省木曾川下流河川事務所より）
 - ・長島堤防の変遷
 - ・現在の堤防が想定している災害及び堤防の注意点 他 質疑
- 学校・保護者・地域の方による学校別意見交流会
 <協議テーマ>

「長島の学校が共通してできることとは？」

～長島ルールづくりに向けて～

- ・協議視点1 防災教育面より
- ・協議視点2 学校・保護者・地域連携面より



[参加者の感想]

- ・今年度初めて学習会に参加しましたが、とても勉強になりました。これがベストという答えはないと思いますが、できる限りの備えが必要であることがわかりました。これからもプロジェクトを続けてほしいと願っています。（地域）
- ・北部小地区に住んでいますが、まさかここまでは津波は来ないだろうと安心しているところもあります。しかし、いつ、どんな地震が起こるかわからないので、家族でしっかりと話し合っておかないといけないとつくづく思いました。学校には、予告なしの避難訓練をぜひたくさん行っていただき、子どもたちに身をもって覚えてもらいたいと思います。（保護者）
- ・高速道路に避難場所を設置するという、また堤防の耐震対策をしていることなど、今進められている事業がわかり、本プロジェクトが前進していることが感じられました。学校内の避難訓練だけでなく、地域を広く把握した上で、今やっている訓練が本当に有効なのかを考え続けていくことが大事だということがわかりました。（教員）

(キ) 今後に向けて

- ◇NEXCO中日本や国交省木曾川下流河川事務所の協力を仰ぎ、長島地区の現状を伝えていただいたことは、今後の長島の防災を考えるうえで十分に参考になった。学校防災アドバイザーからも、本プロジェクトがさらに一歩前進したという総括をいただいた。
- ◇「長島ルール」づくりについては、今後も学校・保護者・地域が連携して考えていかなければならない課題として確認された。長島の防災を考える貴重な機会として定着してきているので、本プロジェクトの継続が望まれる。

オ 学校防災・防災教育リーダー養成フォローアップ講座

(ア) 対象校 市内全小中学校

(イ) 事業のねらい

桑名市内の学校防災・防災教育の充実を図るための研修会を開催し、今後の学校防災・防災教育を牽引する中堅教職員を防災リーダーとして養成することを目的としている。3年目となる本年は、具体的な内容を扱う演習を通して実践力の向上をねらうと同時に、近隣校での情報交流を通して学校防災についての意識の向上をねらう。



(ウ) 学校防災アドバイザー

三重大学大学院工学研究科 川口 淳 准教授

(エ) フォローアップ講座の構成

第1講（講演・演習）「防災ノート」の効果的な活用の仕方についてⅠ

→「防災ノート」を活用した防災学習の展開例について班別協議する

第2講（演習・講演）「防災ノート」の効果的な活用の仕方についてⅡ

→班別協議した防災学習の展開例について全体で交流し、展開におけるポイントについて学ぶ

第3講（講演・演習）学校防災計画の見直しについて

→講演のあと自校の防災計画について見直し、気づきを近隣校の防災リーダー間で交流する

(オ) フォローアップ講座の内容

◆第1講◆ 10月24日（金）15：30～17：00

【講演・演習】

桑名市中央公民館2F大研修室

○防災について考える上で大前提となるのは、「生き残る」「生き延びる」「もとに戻す」の3点である。それぞれの視点において少しでも具体的な想定や備えができるように工夫されたのが今回の「防災ノート」改訂のポイントである。

○「防災ノート」を活用した4校時程度の防災学習展開例を少人数の班で考える。班は校種別、また比較的立地条件の似ている近隣校4～5校で構成する。

<参加者の感想>

◇学校の立地や子どもたちの数・様子などによっても考えなければいけないことに気づけた。

◇具体的なイメージをさせるためにいろんな手立てを用意しておくことが大切。なるべくいろんな想定を現実に近づけて行っていけるよう考えたい。

◇いかに自分が災害について考えていないかがわかった。「子どもたちの命を最優先に」と言葉ではわかっているつもりだったが、何もわかっていないのだと気づかされた。

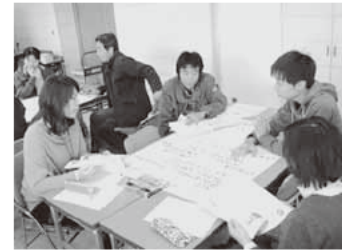


◆第2講◆ 11月20日(木) 15:30~17:00

【演習・講演】

桑名市長島庁舎2F大会議室

○第1講で班別協議した防災学習の展開例について全体交流し、それぞれの展開例について学校防災アドバイザーが指摘することで、具体的なポイントを通して学びを深める。



<参加者の感想>

- ◇「実際はどうか」と今あるマニュアルについて考えてみるのがいかに大切か、はっとさせられる。本当に子どもたちの命を守れるのか、これから避難訓練を控えていることもあり、いま一度考えなおしたい。
- ◇簡易トイレを作って座ってみるといふ話、津波の映像の取り扱いの話など、とても参考になった。どれだけ子どもたちに具体的なイメージを持たせて学習に向かわせるかが大切だとわかった。

◆第3講◆ 12月19日(金) 15:30~17:00

【講演・演習】

桑名市長島庁舎2F大会議室

○例えば、発災時に避難経路は計画のまま使えるとは限らない。避難行動に入る前に、避難経路の安全を確認する必要がある。そういった具体的な動きを訓練に位置づけておく必要がある。



○改めて自校の防災計画と避難訓練実施計画について見直しを行う。気づいたことを書きこんでおき、近隣校を中心に共有する。

<参加者の感想>

- ◇他校では避難所になった際の担当まで設定してあった。他校の良いところを参考にして、自校でも様々な想定で訓練を行っていきたい。
- ◇改めて自校の防災計画に目を通し、「どうするの?」「無理じゃないか?」と思うことがたくさんあった。自校に帰り、職員で確認し合う場を持ち、様々な想定に対する手立てを考えたい。

(カ) 成果と課題

○学習活動の展開例や既存の防災計画の見直し等を、比較的立地条件の似ている近隣校の防災リーダーで交流しながら行うことで、より具体的な視点で指摘しあうことができた。

○避難訓練の活動計画等を事例に、学校防災アドバイザーから改善ポイントについて具体的に示していただいたことで、その後の避難訓練の改善につながった。

○学校全体の防災計画と避難訓練の内容が関連していなかったり、災害の想定と避難行動の内容がかみ合っていないことがわかってきた。より現実的な場面想定にもとづく防災計画となるよう、各校の内容を見直していく必要がある。



6 御浜町の事業

(1) 学校防災アドバイザー活用事業

(ア) 学校防災アドバイザー 三重大学大学院工学研究科 川口淳 准教授

(イ) 学校防災研修会の実施

① 第1回御浜町学校防災研修会（阿田和小学校第1回研修会）

阿田和小学校の防災研修会へ各学校の防災担当者・管理職の参加を得て防災研修会を開いた。

日 時：平成26年8月6日(水)午後

場 所：御浜町役場3階くろしおホール

参加者：町内各校防災担当者、管理職、阿田和小学校教職員

内 容：(i) 講話「～三重で子どもたちに何をどう教えるか?～」

(ii) ワークショップ「防災ノートを使った授業案の作成」

(i) 講話

初めに「三重で子どもたちに何をどう教えるか?」とうことでアドバイザーの川口准教授から講話をいただいた。概要は、今年の2月14日に降った大雪の話から、三重に積もる雪と雪国に積もる雪とでは、同じ積雪でも災害であるか、ないかは違う。「災害」とは、土地により場所による常識を超えたものであること。

津波避難の3原則

- ・決してあきらめず最善を尽くせ
- ・想定を信じるな
- ・率先避難者たれ

災害対策の基本

- ・生き残り
- ・生きのびて
- ・もとに戻して次につなげる



事前対策の壁と対策

- ・正常性バイアスの壁
- ・同調性バイアスの壁
- ・忘却の壁
- ・自分自身のことと気付き
- ・自分自身で考え
- ・自分自身で行動を起こし
- ・行動の評価を基に改善を

(ii) ワークショップ

防災ノートを使った3時間分の授業のデザインを各グループで考え交流を行った。



② 第2回御浜町学校防災研修会（神志山小学校第1回研修会）

神志山小学校の教職員を対象に防災研修会をもった。

日 時：平成26年8月29日（金）午後

場 所：神志山小学校3階 視聴覚室

参加者：神志山小学校教職員、御浜町防災課職員

内 容：(i) 講話「防災学習の基礎」

(ii) ワークショップ「図上訓練」



(i) 講話：防災教育で重要なこと

- ・それぞれの取組に納得感を与えること
- ・防災には、正解はないことを教えること
- ・例えば避難経路の正解はない
- ・いろいろな考え方、感じ方を許容する
- ・いわゆるマニュアルを押しつけない
- ・防災には、満点はないがやったことは必ず積みあがることを教えること
- ・危険だけを押しつけないこと

(ii) 図上訓練

図上訓練には、「状況付与型訓練」と「状況予測型訓練」があるが、状況予測型の図上訓練を行った。

※「状況付与型訓練：比較的細かい状況の付与が多数行われ、都度それに対応を検討するもの。ロールプレー型、図上シュミレーション。行政などでよく行われる。

「状況予測型訓練：最小限の状況付与に基づき、参加者が発生する事態を予測して対応を考えるもの。

訓練では、神志山地域の地形を確認した上で、大雨で土石流の警戒が必要であるとか、震度6以上の地震が起きた等の状況の中で、考えられる被害にどう対応するか、参加者で話し合った。



③ 第3回御浜町学校防災研修会（阿田和小学校第2回研修会）

日 時：平成26年11月19日（水）午前10時30より

場 所：避難訓練 阿田和小～広域避難場所（紀南病院駐車場横を上った空き地）
約1.2 km

内 容：(i) 避難訓練

(ii) 避難訓練に関わって子どもたちへの講評及び

防災学習（4・5・6年）

(iii) 職員研修 ゲームクロスノート

(i) 避難訓練

大きな地震が起きたことを想定し、学校から広域避難場所まで避難をする。

全学年、自分のペースで走って避難をする。全員が15分ほどで、避難を完了した。途中には、交通安全対策協議会・駐在所・ご近所の方々も角々に立っていただき安全を見守っていただく。





(ii) 避難訓練に関わって子どもたちへの講評及び防災学習（4・5・6年）

- 避難について川口准教授から、
- ・最後まで全員が走り切ったこと
 - ・「がんばれがんばれもう少しやでと、しんどい子に声をかけながら走っていたこと。」が大変良かったと講評をいただいた。

その後、地震はなぜ起こるかということや、備えはどうするかということについてお話をいただいた。



(iii) 職員研修 ゲームクロスノート

避難所等でおこり得る判断の迷う対応について YES か NO で答え、それぞれについて問題点を考える。

ゲームを通じて、災害時の対応を自分のこととして「主体的に」考えること。自分とは異なる意見・価値観の存在に気づく。災害時の様々な問題について、事前に学ぶことができ、地域・組織における合意形成ができる。



④ 第4回御浜町学校防災研修会（御浜小学校第1回研修会）

日 時：平成26年11月26日（水）

場 所：御浜小学校体育館

内 容：保護者・職員対象講演

「南海トラフ地震に備える」

一日授業参観の後に、防災講演会を設定し、保護者の参加のもと職員が講演を聞いた。

- ・防災対策の必要性
- ・他地区の防災への取組の紹介
- ・防災ノートの活用など

参加者：保護者、児童、職員合計37人



⑤ 第5回御浜町学校防災研修会（阿田和小学校第3回）

日 時：平成27年1月21日（水）

場 所：阿田和小学校

内 容：(i) 授業参観における全学年防災に関わる授業公開

(ii) 保護者・児童への防災講演会

(iii) 教職員へ授業についての講評・アドバイス、1年間の取組のまとめ

(i) 各学年の防災学習

- ・**1年生** 防災ノート P5～P6

「学校からの 帰り道で大地震が起こったら」
どんな危険がおこるか。→どうしたらいいか考える。(頭を守る。ダンゴ虫になる等)

- ・**2年生** 絵本「じしんえほん」の読み聞かせ・ピクトグラムについて絵本を読み聞かせしながら、地震が起こったら、どうしたらいいか考えていった。

また、町にあるピクトグラムについて学んだ。

- ・**3年生** 平成23年9月の台風12号による水害の様子から(写真：紀宝町鮎田地区)
台風12号の水害の写真から、どういったところで水害が起こるかを考えていった。写真と地図を資料として、大きな川の近くや土地が低いところであることを学んでいった。それをもとに、地震の時の津



波も同様な場所におこると考えられることから、自分たちの阿田和地区について、地図とフィールドワークで学んでいく予定。

- ・ **4年生** 防災ノート P7～P8「家にいるときに大地震がおこったら」

ワークシートにどういふことが起こるか考えて書き、発表。さらに、具体的に台所や勉強部屋、ふろ場などでは、どんな危険が起こるかを考え、それにどう対処するかを考えていった。自分でできることや家の人をお願いすることなどを考え発表した。



- ・ **5年生** 東南海大地震体験談集を読んで考える。

尾鷲市総務課が昭和 59 年に聞き取りを行いまとめたものから、2 人の体験集を読み、そこから分かることを考え、自分の地震の備えとした。



- ・ **6年生** 防災ドリル（デジタルコンテンツ「津波のメカニズム」）

電子黒板にデジタルコンテンツを写し、予想を話し合い、津波のメカニズムについて学んでいった。



(ii) 親子防災学習会（4・5・6年生、保護者の方へ川口先生の講話）

- ・ 阪神淡路大震災、東日本大震災の画像を基に、地震への備えについて話をいただく。また、災害ダイヤル 171 の使い方について教えていただいた。

(iii) 職員研修

- ・ 各学級での防災学習について交流をし、本日の公開授業に関わって川口先生から講評を頂いた。また、保護者や地域との連携についてのアドバイスを頂くとともに、来年度への課題について話し合った。

⑥ 第 6 回御浜町学校防災研修会（御浜中学校 第 1 回）

日 時：平成 27 年 1 月 23 日（金）

場 所：御浜中学校

内 容：(i) 施設設備の防災上のアドバイス
(ii) 避難所運営について（職員研修）



(i) 施設設備の防災上のアドバイス

川口先生に校舎内外の施設設備について、防災上のアドバイスを頂いた。

テレビを設置していた天井からの吊り下げ台を撤去することや、後付で設置された非常階段の構造上の問題点等アドバイスを頂き、非常時に気を付けることを伺った。



(ii) 避難所運営について（職員研修）

全職員が、3つのグループに分かれて、避難所運営ゲーム HUG を行った。

避難者の受け入れにおける、様々な配慮すべきことやトラブルなどをグループで話し合いながら解決していくことで、避難所運営について学んだ。

⑦ 第7回御浜町学校防災研修会（神志山小第2回）

日時：平成27年1月28日（水）

場所：神志山小学校

内容：

(i) 防災学習（ストローハウスの実験）（児童）

(ii) 防災ノートを使った授業について（職員研修）



(i) 防災学習（ストローハウスの実験）

全児童40名が、5つの班に分かれ、ストローを使って、家を作った。揺れに強い安定した構造を理解するとともに、住宅の耐震の大切さを学んだ。

(ii) 防災ノートを使った授業について（職員研修）

他校での防災に関わる授業の紹介や、防災ノートを使った授業において大切なことを話していただいた。例えば、瓦が落ちてきたら大変危険だということを実物の瓦を見せ、その瓦を学校の校庭に落として割れる様子をビデオで見せるなど、単に知識だけでなく、実感を伴って理解できるような手立てについてアドバイスを頂いた。

⑧ 第8回御浜町学校防災研修会（尾呂志学園第1回）

日時：平成27年2月19日

場所：尾呂志学園小中学校

内容：①防災学習（中学生・小高学年）

②避難所運営(自主防との連携、HUG)

⑨ 第9回御浜町学校防災研修会(御浜小第2回)

日 時：平成27年2月23日(月)午前

場 所：御浜小学校

内 容：防災学習5.6年

地震に強い家をつくる(ストローハウス)

⑩ 第10回御浜町学校防災研修会(阿田和中第1回)

日 時：平成27年2月23日(月)午後

場 所：阿田和中

内 容：避難所運営について(HUG)

(ウ) 成果と課題

- ・避難所となっている学校においては、避難所運営ゲーム HUG を取り入れることで、発災時の避難所におけるトラブルや手立てについて具体的にイメージをすることができ、避難所運営に備える教職員の心構えができた。
- ・防災に関わる授業の全学年公開では、各学年間の防災の知識・技能のつながりや積み上げを見ることができ、防災ノートをベースにした児童への授業を継続的に行っていく意義や成果を見ることができた。
- ・避難訓練において、高台の避難所への経路途中で、地域の方々が、見守りを頂くなど、地域を絡めた活動ができ始めた。
- ・川口先生に校舎等の見回りを頂くことで、今まで気づかなかった防災上の危険箇所や改善点についてのアドバイスを頂き、改善できる点については、早急に改善した。
- ・川口先生の講話で、基本的な防災に関わる知識や心構えについて、あらためて聞くことで、東日本大震災の教訓を忘れず、南海トラフを震源とする地震への備えを怠らない機会とすることができた。
- ・防災研修会を複数回行った学校の意識はかなり高く、1回しか行わなかった学校との差が感じられる。どの学校も複数回防災の研修会を入れていきたい。
- ・自主防災組織との連携した研修が尾呂志学園1校だけであったので、来年度は自主防災組織との連携を増やしていきたい。

7 セントヨゼフ女子学園高等学校の事業

(1) 災害ボランティア活動の推進・支援事業

「カリタス釜石ボランティア」

(ア) 事業のねらい

学校の建学の精神「愛と奉仕の精神」にもとづき、被災地復興のために働く。被災者との交流を通じ、日本社会における「真の復興とは……？」を考える。

(イ) 日程

8/2 (土)	6:00	12:00	17:00
		三重県津市を出発 (8:30/東海道新幹線と東北新幹線乗り継ぐ)	岩手県釜石市に到着 (16:40)
8/3 (日)	6:00	12:00	15:00
	「釜石はまゆりトライアスロン大会」のボランティア (6:00~/根浜海岸)	片付け作業 (カリタス釜石)	・ミサに参加 (15:00~/釜石カトリック教会) ・カリタス釜石の夕のミーティングに参加 (16:30~)
8/4 (月)	6:00	12:00	17:00
		唐丹小・中学校の子どもたちとの「うみあそび」 (9:00~/唐丹町大石海岸)	通信発送のお手伝い (カリタス釜石)
			独自の夕のミーティング (16:15/カリタス釜石)
8/5 (火)	6:00	14:00	
		・日台きずな保育園訪問 (9:20) ・山田町第一保育所訪問 (10:20) ・山田町社会福祉協議会訪問 (11:30)	・「学ぶ防災」※ (14:00~/宮古市田老地区) ⇒ガイドさんの被災時のお話、防潮堤や「たろう観光ホテル」の見学 ・釜石高校の生徒さんの震災の体験談 (17:30~/カリタス釜石)
8/6 (水)	6:00	12:00	17:00
		岩手県釜石市を出発 (10:15)	三重県津市に帰着(18:30)

※東日本大震災の影響で甚大な被害が出た田老町の災禍の記録や後世への教訓を伝え、防災意識を高めることを目的として、宮古観光協会が行っているもの。

(ウ) 参加者

高校生 10名 (高校1年生4名、高校2年生6名)

引率教師 4名 (男性教員2名、女性教員2名)

(エ) 活動内容

《事前学習》

7月4日：持ち物とスケジュール確認をする。

ここから生徒たちは、釜石ボランティアの準備(歌の練習、体操の練習)、現地の学習をほぼ毎日行う。たとえば、唐丹町の震災被害の生徒たちが、現在でも海を怖がっている状況など情報を得ることで、「うみあそび」で繊細に対応できるように心の準備をする。

7月18日：昨年参加した高校3年生から体験談を聞き、釜石での生活で気をつけることなどを学ぶ。地震にすばやく対処するため、眠るときに、枕元に懐中電灯を置くなど。

《1日目》8月2日(土) 移動日

①三重県津市出発し、岩手県釜石市へ(所要時間約9時間)

②夜：カリタス釜石での生活のオリエンテーション

《2日目》8月3日(日)

釜石はまゆりトライアスロン大会のボランティア【釜石市根浜海岸にて】

今年からスイムが復活し、震災後初めて三種目揃ったトライアスロン大会だった。津波で海底に瓦礫があったため、3年間スイムができなかった。全国から144名の選手が参加し、250名のボランティア(この中に本校の生徒10名と教師4名)で大会を支えた。復興の兆しを感じさせる大会だった。

2016年「岩手国体」でトライアスロン競技が正式種目となり、釜石市で開催されることになっている。



(ゴールテープ持ち)



(チップ回収)



(全体写真)

《3日目》8月4日（月）

①唐丹小・中学校の生徒たちとの「うみあそび」【唐丹町大石海岸にて】

唐丹小学校は津波で校舎が流され、中学校の校庭に建設した仮設校舎で過ごしている。そのため、小学校の先生方が生徒の体力低下を心配され、この企画が始まった。また、震災後から初めて海で遊ぶ



という子どもや、海が怖いという

子どもたちに、海は楽しいところでもあることを感じてほしいという思いから計画された。

「うみあそび」のあと、唐丹の子どもたちの感想文に“震災後はじめて海で泳ぎました！正直津波を覚えていて海が怖かったです。だけど大石の海がすごくきれいで、なんかほっとしました！！あの磯の香りもしょっぱい海の水も津波も、全部含めて唐丹だけのものだなと教えてもらいました！”と書かれていた。



②唐丹小学校仮設校舎を訪問



唐丹中学校のグラウンドに建てられている、小学校の仮設校舎の見学をした。仮設であるために物音や振動が大きく、授業に集中できないこともある、とのことだった。校長先生の「東京オリンピックの開催が決まったことで、鉄筋校舎の建設が1年延長された」というお話を聞いて、本校の生徒たちは衝撃を受けていた。東北の方々の、みんなからだ

んだん忘れ去られていくのではないかという気持ちを感じた。

《4日目》8月5日（火）

①日台きずな保育園（元わかき保育園）
訪問【山田町】

この保育園は津波で園舎が流され、名前を変えて山の上に新しく建てられた。本校は震災後から交流を続けている。園児といっしょに歌を歌ったり、体操をしたりした。



②山田町第一保育所訪問【山田町】

この保育所は、津波で床上浸水した。全員、山の上のお寺へ避難するが、保護者に引き渡した後、3名の園児が亡くなった。所長さんは、「想定外を想定する」ということを強調して私たちに話してくださった。園児たちが私たちにを見せてくれた、地域の秋のお祭りである「虎舞」は、地域の方々と園児との結びつきを強める絆になっている。山へ避難する時に地域の方が園児の手を引いて一緒に逃げてくれることにつながった。地域とのつながりの大切さを学んだ。



③山田町社会福祉協議会訪問【山田町】

震災後より支援を続け、本校と山田町を結ぶ橋渡しをしてくださっている団体である。玄関には今も本校が震災後送った応援旗が飾られている。



④「学ぶ防災」【宮古市田老町】

「学ぶ防災」とは、東日本大震災の影響で甚大な被害が出た田老町の災禍の記録や後世への教訓を伝え、防災意識を高めることを目的として、宮古観光協会が行っているものである。



「隅切り」の道路

田老町は明治29年、昭和8年など幾多の大津波により壊滅的な被害を受け、尊い生命と財産を失ってきた。その教訓から、津波防災の町として、様々な工夫（見通しをよくするために十字路の四つ角をカットする「隅切り」の道路や、約2kmにわたって集落を守る3つの防潮堤、津波の教訓を伝える「大海嘯訓令碑」（昭和9年）など）を施している。

実際に防潮堤に上り、被災された体験を持つガイドさんから、田老町の防災と防潮堤の説明や3月11日の被災時のお話を聞いた。

また、避難の際に使った急な登り坂をたどった。この急な道を走って上るのは、相当な体力が必要であることがわかった。



大海嘯訓令碑

避難する際は、走るのが速い人が先頭で、遅い人が真ん中、後ろにまた速い人という順番で逃げるのが一番速いということや、レジかごで頭を覆うこと、瓦礫の下敷きになったときには笛を吹くのがよいこと、エレベーターを使わず階段で下りることなどを教えていただいた。

津波により、3階部分まで壊滅的な被害を受けた「たろう観光ホテル」を間近で見た生徒たちは、言葉を失った。その後、「たろう観光ホテル」の最上階から撮られた津波の映像を見せていただき、胸が痛くなった。第二防潮堤から7秒で津波が襲い、その大きさと一瞬で町が飲み込まれていくあまりの衝撃に言葉が出なかった。「自分の命は自分で守る」ということを実感した1日だった。



第1防潮堤



“もの言わぬ語り部”
たろう観光ホテル

《5日目》8月6日（水）

釜石から三重県津市に帰る。

（オ）成果

①真の復興とは？

このボランティアを続けてきて、3年が経った。被災地の悲惨な状況は復旧工事によって一見きれいに見えてくるが、被災者の方々の目には見えない心の傷をさらに見えにくくさせている。生徒たちは、実際に被災地に行き、被災者との交流（特に唐丹小・中学校の生徒たち、山田町の保育園児）を通じて「日本社会における真の復興とは何であるのか？」を問い続けるきっかけをいただいている。

②東北への関心度の高さ

本校では、このボランティアに参加した生徒たち全員が、全校生徒と教職員（約600人）を前に、約50分の報告会を、毎年行っている。このことは、テレビや新聞などの情報が少なくなっている現時点での東北の現状を知るきっかけになっている。ひいては、教職員・生徒たちの東北

に対する関心を高めるきっかけにもなっている。毎年、このボランティアに参加申し込みをする生徒が定員を超える原因は、口コミで先輩から後輩によい体験学習であることが伝えられているからである。

③ 現地での防災学習

このボランティア活動は、単なるボランティア活動にとどまらない。現地に行き、防災についての学習を行っている。今年は宮古市の「学ぶ防災」のご協力で、田老地区の防潮堤、田老の避難場所、防災の工夫、また3月11日の被災体験などを聞くことによって、「自分の命は自分で守る」ことの大切さを学んでいる。

またカリタス釜石の宿泊所（4泊5日）では、床に寝袋を敷いて眠った。避難所ではこのようになるかもしれないという普段とは違った体験から、避難生活を強いられている方々にどのように寄り添っていけばよいかを考えさせられた。

④ 体験から理解へ

このカリタス釜石では、毎日ボランティアから帰ってくると、「夕のミーティング」で、その日の体験を全員が分かち合う。これは、ボランティアを通して自分では消化できないようなできごとに対し、一人で抱え込まず、自分を客観視するための大切な時間である。ただ単にボランティアをしました、というのではなく、自ら感じ、発見し、考えていく作業を毎日行う。これは、防災学習の基礎である。

⑤ 学習面や精神面での向上

このボランティアに参加した生徒たちは、学習面や精神面での強化・向上がみられる。

（カ） 今後の課題

- ・ 現地の防災学習の場を宿泊先の釜石市近郊で行えないかを探したい。
- ・ 毎夏続けているこのボランティアの経済的な援助をどこからか受けたい。
- ・ 3年続けてきたボランティアだが、まだ一度も学外の発表の機会がない。地域の防災集会の時に、この発表を行って、地域に貢献したいと考えている。



8 成果の共有と課題解決に向けて

(1) 防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業

桑名市では、「緊急地震速報受信システムを活用した避難訓練」と「桑名市防災学習ツアー」の2つの取組を実施した。

平成24年度及び25年度に続いて、今年度は緊急地震速報受信システムを新たに6校に設置し、合計18校となった。このシステムを活用した避難訓練を実施することにより、地震の揺れが到達する前の行動について意識できるようになるなど実践的な防災対策の向上につながるようになった。

桑名市の緊急地震速報受信システムの整備率の向上は、市内全ての学校の防災力の強化につながるだけでなく、他市町等の防災力推進の模範となるものである。

また、「防災学習ツアー」では、他県の先進的な施設の体験を通じて学んだ知見やノウハウを、市内の学校と教職員に還流するための取組が、今後の防災教育の充実に大きく寄与するものと考えられる。

(2) 学校防災アドバイザー活用事業

桑名市では「防災教育アイデア集を活用した公開授業研修会の実施」、「学校防災力向上のための教職員への指導・助言」、「津波被害が想定される学校・地域における防災体制の確立に向けた地域防災学習会」、「長島防災プロジェクト」、「学校防災・防災教育リーダー養成フォローアップ講座」の5つの取組で、多彩な専門家が学校防災アドバイザーとして活用され、それぞれ専門的な見地から、学校の防災教育・防災対策に指導と助言がなされた。

「防災教育アイデア集を活用した公開授業研修会の実施」では、平成25年度に作成した「防災教育アイデア集」を活用して、毎日の教科指導に防災の視点を取り入れることで、年間を通じて様々な防災教育が行われることになり、「防災の日常化」に向けた取組として有効であった。

「学校防災力向上のための教職員への指導・助言」では、東日本大震災で課題となった避難訓練や校内安全点検の大切さを踏まえて、教職員が学校防災アドバイザー等から指導と助言を得られたことは、今後の防災対策の参考となり、市内全学校の将来的な防災力向上につながると考えられる。

「津波被害が想定される学校・地域における防災体制の確立に向けた地域防災学習会」では、市内沿岸地域に位置する2小学校区を対象に防災体制確立に向けた防災学習会が実施され、学校・地域の防災に対する課題や危機感を共有できたことは、地域の防災力を高める取組であると考えられる。

「長島防災プロジェクト‘14」については、学校・保護者・地域が継続的に合同学習会を開催することで「長島ルール」づくりを早期に確立し、他

の地域の範例となることを期待したい。

「学校防災・防災教育リーダー養成フォローアップ講座」では、市内全小中学校から、防災教育を牽引する中堅教職員を防災リーダーとして養成して3年目になるが、教職員間の話し合いを通じて、様々な課題に気づき、それらを各学校へ還流することにより、各学校における防災力向上につながることができた。

一方、御浜町では、防災研修会を阿田和小学校、神志山小学校、御浜小学校、尾呂志学園小中学校、御浜中学校、阿田和中学校を対象として、三重大学大学院工学研究科の川口准教授を学校防災アドバイザーに各種事業が展開された。長期間にわたり、多様な形態をとりながら、一人の指導者がじっくりと時間をかけて各学校の教職員及び児童生徒等を指導することで、非常にきめの細かい、行き届いた指導と助言が行われたことにより、教職員及び児童生徒等の防災意識の向上や防災対策の充実には目をみはるものがあった。

特に、学校における発達段階に応じた継続的な防災学習により、各学年の児童生徒の防災力が着実に向上していることが確認された。

これらの支援事業により、幅広い分野の防災の専門家の力を学校の防災教育・防災対策に活かすことができたことが大きな成果であった。

(3) 災害ボランティア活動の推進・支援事業

今年度、私立学校であるセントヨゼフ女子学園高等学校が当事業を実施した。私立学校の実施は、本県では初めてのことであり、他の私立学校を含め、県内全学校の防災力向上の裾野が広がったものと考えられる。

セントヨゼフ女子学園高等学校は、生徒10名を東日本大震災の被災地である岩手県釜石市へ派遣する形態で事業を実施した。当校では、これまでも東北災害ボランティア活動を独自で実施し、生徒の中で大変貴重な体験活動であるとの認識が広がっており、今回参加した生徒も学習面に限らず精神面においても成長が見られることが大きな成果である。

また、被災地を実際に見て、直接経験を聞き、ボランティアを行う体験ができたことは、安心して安全な社会づくりに自ら進んで貢献する意識の向上につながったと考えられる。

なお、参加した生徒による校内発表会を開催するなど、生徒及び教職員に成果を還流する方策が積極的にとられたことは、今後の防災教育の充実につながると考えられる。

(4) 課題

この事業での成果を根付かせ、さらに進化発展させていくため、この事業に携わった各種専門家や他の市町等とのネットワークを活用しながら、連携を強化していくことが求められる。

また、参加した児童生徒及び対象校の実践が、そこに留まらず、県内全

域に広がっていくように、情報の共有と交流の機会を設けていくことが大切である。昨年度の課題の一つとして、私立学校の参加がないことが挙げられたが、今年度はセントヨゼフ女子学園が対象となり設置者別の偏在が解消されたことは前進であった。

「学校防災アドバイザー活用事業」については、桑名市で多様な専門家の活用がなされたが、平成 26 年度に三重県と三重大学が連携・協力し設立した「みえ防災・減災センター」との連携も視野に入れながら、幅広く人材の発掘を図ることが重要である。

「災害ボランティア活動の推進・支援事業」については、東日本大震災の被災地を訪れてのボランティア活動が、心のケアなどの新たなボランティア活動の段階にきており、今後も新しい展開を目指したボランティア活動等を模索する必要がある。

また、実践的防災教育総合支援事業は、今年度で 3 年目をむかえ、これまでに実践した市町等の取組が、その後自主的かつ発展的な取組につながっているかをフォローアップすることが、今後の防災教育・防災対策をより効果的なものとするうえで重要である。

【右ページの「事業対象校の特色」の凡例】

- 小：小規模校（児童生徒数 200 名未満）
- 中：中規模校（児童生徒数 200 名以上 1000 名未満）
- 大：大規模校（児童生徒数 1000 名以上）
- 内：内湾沿岸
- 外：外湾沿岸
- 盆：盆地
- 平：平野
- 輪：輪中
- 三：三角州
- 都：都市
- 住：住宅地
- 農：農山村
- 漁：漁村

「津波到達時間 30 分以内」は、三重県防災対策部資料「津波の浸水予測（平成 25 年度版）」の「30cm 津波到達時間」による。

9 参考

(1) 事業対象校の特色

市町等	校種	学校名	参加事業			学校の特色			予想される災害									
			指導方法の 開発普及	アドバイザー 派遣	ボランティア 活動	規模	地形	立地	津波	津波到達時間 30分以内	高潮	洪水	土砂災害	液状化	雪害	延焼・類焼	地震時の 孤立可能性	被災時の 孤立可能性
桑名	小学校	日進	○	○		中	平	住	○		○	○		○		○		
		精義		○		小	平	住	○		○	○		○		○		
		修徳	○	○		中	内	住	○		○	○		○		○		
		大成		○		中	平	住				○	○			○		
		深谷	○			小	平	住農					○	○		○		
		城南		○		中	内	住漁	○		○	○		○		○		
		藤が丘		○		中	平	住								○		
		星見ヶ丘		○		中	平	住								○		
		多度北	○			小	平	住農			○	○				○		
		長島北部		○		小	輪	住農	○		○	○		○				○
		長島中部	○	○		中	輪	住農	○		○	○		○		○		○
	伊曾島		○		小	輪	住農	○	○	○	○		○				○	
	中学校	成徳	○			中	平	住農						○		○		
		明正	○	○		中	平	住				○				○		
		光風	○			中	内	住	○		○	○		○		○		
		正和	○			中	平	住農				○				○		
		多度	○			中	平	住農						○		○		
		長島		○		中	輪	住農	○		○	○		○		○		○
	御浜	小学校	神志山		○		小	盆	農									
			御浜		○		中	平	住農								○	
阿田和				○		小	外	住魚	○	○	○	○				○		
中学校		尾呂志学園		○		小	盆	農										○
		御浜		○		小	平	住農									○	
		阿田和		○		小	外	住魚									○	
私立	高校	セントヨゼフ 女子学園			○	中	平	住						○		○		

(2) 事業日程

月	日	曜	桑名市	御浜町	セントヨゼフ女子学園	備考
7	3	木			参加者の保護者承諾書受理	
	4	金			参加者説明会、持ち物とスケジュール説明	
	13	日			津市社協でボランティア保険に加入(天災タイプAタイプ)	
	18	金			参加生徒が昨年体験した生徒の体験談を聞く	
8	2	土			津駅から釜石へ出発	
	3	日			釜石はまゆりトライアスロンボランティア	
	4	月			唐丹小・中学生とうみあそび、ミサ	
	5	火			日台きずな保育園、山田町第一保育所、山田町社協訪問、田老地区での防災学習	
	6	水		第1回御浜町学校防災研修会(阿田和小)	釜石から三重県津市へ帰着	
	18~22	月~金			全校発表の準備	
	25	月			全校発表のリハーサル	
	26	火			全校生徒に向けての発表、文集作成開始	
29	金		第2回御浜町学校防災研修会(神志山小)			
9	24	水	緊急地震速報受信システムメーカー説明会(～25)			
10	18	土			ウォーカーソン(募金活動)を通して、東北支援活動を行う	
	24	金	学校防災・防災教育リーダー養成フォローアップ講座【第1講】			
	27	月	校内安全点検力向上事業(長島北部小)			
	28	火	緊急地震速報受信システムを活用した避難訓練(深谷小)			
校内安全点検力向上事業(修徳小)						

月	日	曜	桑名市	御浜町	セントヨゼフ女子学園	備考
11	13	木	校内安全点検力向上事業 (精義小)			第1回推進委員会
			緊急地震速報受信システムを活用した避難訓練 (正和中)			
	17	月	校内安全点検力向上事業 (星見ヶ丘小)			
	18	火	緊急地震速報受信システムを活用した避難訓練 (成徳中)			
	19	水		第3回御浜町学校防災研修会 (阿田和小)		
	20	木	学校防災・防災教育リーダー養成フォローアップ講座【第2講】			
	21	金	第1回城南地区防災学習会			
	26	水		第4回御浜町学校防災研修会 (御浜小)		
27	木	第1回日進地区防災学習会				
12	5	金	緊急地震速報受信システムを活用した避難訓練・避難訓練力向上事業 (明正中)			
			緊急地震速報受信システムを活用した避難訓練 (光風中)			
	8	月	緊急地震速報受信システムを活用した避難訓練 (多度北小)			
	19	金	学校防災・防災教育リーダー養成フォローアップ講座【第3講】			
25	木	桑名市防災学習ツアー				
1	9	金			文集完成、高校2年学年発表	
	16	金	防災教育アイデア集を活用した公開授業研修会 (長島中部小)			
	20	火	第2回日進地区防災学習会			

月	日	曜	桑名市	御浜町	セントヨゼフ女子学園	備考
1	21	水	避難訓練力向上事業（藤が丘小）	第5回御浜町学校防災研修会（阿田和小）		
	22	木	校内安全点検力向上事業補強作業実習会			第1回作業部会
	23	金		第6回御浜町学校防災研修会（御浜中）		
	28	水	第2回城南地区防災学習会	第7回御浜町学校防災研修会（神志山小）	参加者が校長・理事長に発表	
	30	金	防災教育アイデア集を活用した公開授業研修会（修徳小） 長島防災プロジェクト14			
2	4	水				第2回推進委員会
	12	木				全国成果発表会
	19	木	市教委事務局対象防災学習会	第8回御浜町学校防災研修会（尾呂志学園）		
	23	月		第9回御浜町学校防災研修会（御浜小：午前） 第10回御浜町学校防災研修会（阿田和中：午後）		

実践的防災教育総合支援事業

報告書

編集 桑名市教育委員会事務局

指導課

御浜町教育委員会事務局

教育課

セントヨゼフ女子学園高等学校

宗教教育部

三重県教育委員会事務局

教育総務課

発行 平成27年2月

三重県教育委員会事務局

教育総務課

津市広明町13番地